

3 教材

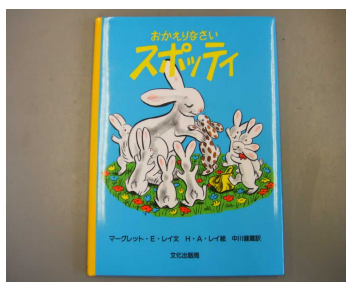
人権保育をすすめるにあたって、参考になるさまざまな教材をそろえました。各保育所で保育の場面や方法に応じて活用してください。

いろいろな人がいることを知り、人とのつながりやふれあいを感じることができる教材、自尊感情についてふれている教材



- 絵本『ともだち』（谷川俊太郎・文 玉川大学出版部）

ともだちってお父さんやお母さんにも言えないことを相談できるひと。ともだちならいやがることをするのはよそう。ひとりではできないこともともだちと力を合わせればできる。



- 絵本『おかえりなさい スポッティ』（マーガレット・E・レイ・文 文化出版局）

みんな真っ白でピンクの目と鼻をしているうさぎの家に、茶色の模様があり青い目をしたスポッティが生まれました。おじいさんのお誕生日におでかけの時、スポッティだけ留守番になり、悲しくて家出しました。



- 紙芝居『いっしょにあそぼ!』（安藤由紀・脚本 童心社）

< いじめ >

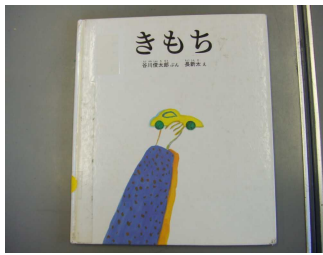
「自分がされたいやなことは、人にはしない」当たり前のことに気づくことを願う物語です。



- 紙芝居『おかえりなさい はなくまちゃん』（安藤由紀・脚本 童心社）

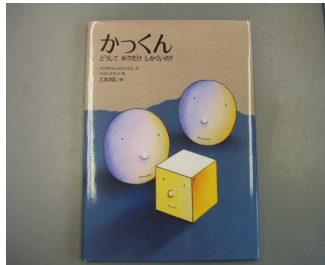
< 自尊感情 >

子どもは育っていく環境の中で、大切にされればされるほど、自尊感情を高めていきます。



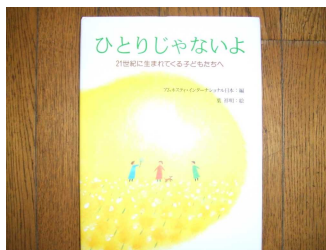
- 絵本『きもち』（谷川俊太郎・文 福音館書店）

いろんなきもちがうまれては消え、消えてはうまれる。
自分のきもちと人のきもちは違う。人がどんなきもちか
考えてみよう



- 絵本『かっくん どうしてボクだけしかくいの？』（クリスチャン・メルベイユ・文 講談社）

まんまる家族はみんながまんまる。生まれてきた赤ちゃん
はまんまるではありませんでした。お父さんとお母さんは
「きみはみんなと形が違うけど、お父さんとお母さんは君
のことが大好きだよ」と優しく言いました。



- 絵本『ひとりじゃないよ』

21 世紀に生まれてくる子どもたちへ』

- （アムネスティインターナショナル日本・編 金の星社）

21 世紀に生まれてくる子どもたちのための絵本です。どん
なときも、人はひとりではありません。誰もがみんなひと
つしか持っていない生命（いのち）を大切に。いつ、どこ
で、どんなふうになんて生まれてきても、みんな幸せになる「し
かく」を持っています。



- 絵本『あなたをずっとずっとあいしてる』（宮西達也・作 ポプラ社）

心優しいマイアサウラのお母さんが、ある日たまごをひと
つ拾い、自分のたまごと一緒に大切に育てていると、生ま
れてきたのは…。お母さん、ぼくと一緒にいてくれてあり
がとう。ずっと忘れないよ。こんなに愛してくれたこと。

障害がある人のことを知ることができる教材



- 絵本『わたしたちのトビアス』（セシリア スベドベリ・編 偕成社）

ダウン症の男の子トビアスの兄姉たちが、見たこと、感じたこ
と、考えたことを、ありのままに記したスウェーデンの本です。



- 絵本『さっちゃんのまほうのて』（たばたせいいち・先天性四肢障害児父母の会など 偕成社）

さっちゃんのは、どうしてみんなと違うの？お母さんのおなかの中でけがをしてしまったの。いやだなあ。大きくなったらなおるの？お母さんの大好きなさちこのかわいかわいいて。さっちゃんのはまほうのて。



- 絵本『さわってごらん だれのかお？』（中塚裕美子・作絵 岩崎書店）

目のみえない子もみえる子も一緒にあそべるバリアフリー絵本です。



- 絵本『はせがわくんきらいや』（長谷川修平・著 株式会社ブッキング）

ぼくは、はせがわくんがきらいです。はせがわくんといったらおもしろくないです。でも・・・これは、ヒ素ミルク認定患者 長谷川集平さんが20歳のときに、自分の幼い日からのことを思い起こして綴った絵本です。



- 絵本『わたしの足は車いす』（フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク・作 ささきたづこ・訳 あかね書房）

両足がマヒしていると、家の中でも外へ行くにも、車いすなしではどこへも行けません。車いすが足のかわりになるのです。これは、はじめて車いすですーパーへひとりでおつかいに行った女の子の話です。悲しいこともあったけど、とっても嬉しいこともありました。

いろいろな国や民族があることを知ることができる教材



★ 人形

日頃何気なく使っている肌色のクレヨンや色鉛筆なども考え直してみると、どうして肌色って言うのでしょうか。肌の色は、さまざまな色があるはずです。保育で使う人形にもさまざまな肌の色の人形があります。



● 絵本『スーホの白い馬』(モンゴル民話・福音館書店)

モンゴルに馬頭琴という楽器があります。楽器の一番上が馬の頭の形をしているので『ばとうきん』と言うのです。どうしてこういう楽器ができたのでしょうか。それには羊飼いのスーホという少年の悲しい話があるのです。



★ 世界の楽器(馬頭琴など)やCD

馬頭琴はモンゴル民族の代表的な楽器です。



● 絵本『マンビのいえ』

(クワン・ユンドク・文 みせけいこ訳 セーラー出版)

モデルになった主人公のマンビは著者の息子さんで、家もソウル市南郊の実際の家です。韓国の暮らしのいまを伝えます。



● 絵本『まるいちきゅうのまるいちにち』

(安野光雄・編 童話屋)

住んでいる場所が違えば、言葉や顔の色や家の形や着ている物も違うでしょうが、泣いたり笑ったりするときの声や顔つきはそっくりなのです。私たちの立っている地球も、たったひとつしかありません。みんながいつまでも仲良く暮らせる地球であることを願っています。



● 絵本『せかいちず絵本』

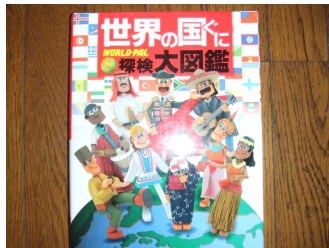
(とだこうしろう作 戸田デザイン研究室)

地球には、陸があり、海があり、私たちが毎日吸っている空気があります。地球には、いろいろな生き物が住んでいます。にんげんもその中のひとつです。いろいろな国、山、川をのぞいてみましょう。



- 絵本『にっぽんちず絵本』
(とだこうしろう・作 戸田デザイン研究室)

私たちが住んでいるこの地球には、おおよそ 190 の国があります。にっぽんは、その中のひとつです。にっぽんのまわりは、全部海です。にっぽんはたくさんの島があり、いろいろな暮らしをしています。



- 図鑑『世界の国ぐに探検大図鑑』(小学館)

国ってなんだろう。どんな国があるのだろう。いろいろな国の国旗や生活や特徴を、写真や絵をたくさん用いて紹介しているわかりやすい図鑑です。



- ★ かるた『せかい いっしゅうかるた』(世界文化社)

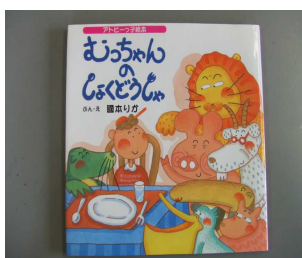
楽しく遊びながら、世界の国の名前や国旗を知ることができ子どもたちの世界への興味が広がります。解説書には、かるたに登場する国の場所がわかる地図もあり、ぐるっとせかい いっしゅうすごろくも付いています。

食べ物に興味を持ち、アレルギーについて知ることができる教材



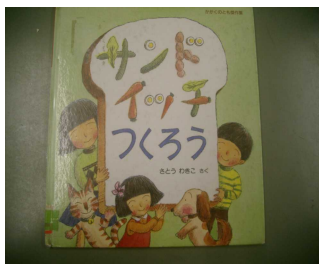
- 絵本『たべるのだいすき! みんなげんき』
(吉田隆子・作 金の星社)

げんきをつくる食育えほん(全5巻)の中の1冊です。食事が人間の元気をつくることを楽しく語りかけます。



- 絵本『むっちゃんのしょくどうしゃ』
(國本りか・文 芽ばえ社)

アレルギーがあるむっちゃんはいスクリームを食べることができません。いろんな人がいる中で、ぼくにはぼくのからだに合った食べ物がある。食べられない物があたって、ちっともおかしなことじゃなかったんだ。



- 絵本『サンドイッチつくろう』
(さとうわきこ・文 福音館書店)

みんなでサンドイッチつくろう。たまごやじゃがいも使ってさ！好きなものをはさんで！きっとおいしいよ。



- 絵本『ひらのれみのお料理ブック』
(福音館書店)

火も包丁も使わないで、子どもが自分でできるお料理をしましょう。



- 絵本『よもぎだんご』
(さとうわきこ・作 福音館書店)

子どもたちは、ばばあちゃんとよもぎ・つくしなど野草を探します。摘んできたよもぎを使って、ほーらおだんごを作ろう！ぼくらおだんごこねこね名人だよ。

★ 食品カードであそびながら考えるボード

毎月各園に配付される
「献立表」を活用して、
手軽にできます。



家族について知ることができる教材

★ 人形 (いろいろな世代のファミリー人形があります)





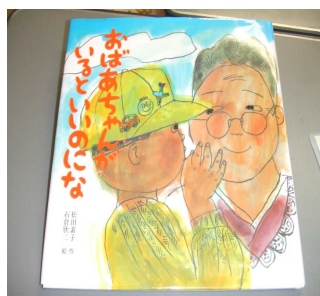
- 絵本『とっときのとっかえっこ』(サリー・ウィットマン・文 谷川俊太郎・訳 童話館出版)

パーソロミューおじいさんは、ネリーのおとなりさん。小さい頃はおじいさんにカートに乗せてもらってあそびました。今度は私が・・・。



- 絵本『ハルバあちゃんの手』
(山本 恒・文 福音館書店)

生まれたての手、器用にかごを編む手、悲しみを押さえる手、夫婦でケーキを作る手、舞を舞う手。手が暮らしを支え、愛を育み、死を見送る。いろいろな歴史を刻んできたハルバあちゃんの手。



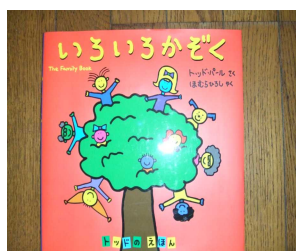
- 絵本『おばあちゃんがいるといいのにな』
(松田素子・作 ポプラ社)

家に帰ってきた時、顔を見るだけでほっとする人。寂しい時、優しく包んでくれる人。悲しい時、慰めてくれる人。ぼくは忘れない。家の中にでーんとおばあちゃんがいるといい。



- 絵本『おじいちゃん』
(ジョン・バーニングム・作 谷川俊太郎・訳 ほるぷ出版)

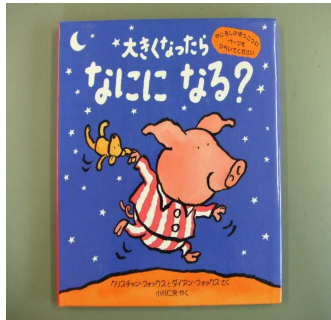
お茶目なおじいちゃんとかわいい孫娘のお話で、お年寄りの死を扱った絵本です。ファンタジーな世界の中での心温まるやりとりから、かけがえのない家族を想うきもちが伝わってくる本です。



- 絵本『いろいろかぞく』
(トッド・パール・作 穂村弘・訳 フレーベル館)

おおきな家族もあれば、ちいさな家族もある。くっついて暮らす家族もあれば、離れて暮らす家族もある。どんな家族でも、ぎゅっとするのがだいすき。家族の誰かがいなくなるのは悲しい。家族は、しっかりいつでも助け合っている。

いろいろな職業があることや男女共生について知ることができる教材



- 絵本『大きくなったらなにになる?』
(Cフォックス・Dフォックス作 小川仁央・訳 評論社)

夜になって、外が暗くなると ぼくはベッドの上でいろいろなことを考える。大きくなったらなにになろうかな? 小さな子でも楽しめるしかけ絵本です。



- 絵本『GOOD JOB @ B!』
(大滝まみ・文 メディア ファクトリー)

「しごとって、なあに?」「まちは、しごとでできている」ジョブブの2冊の絵本で、まちのおしごと108種類が楽しくわかります。



- 絵本『かこさとしのほん 5 おおきくなりたいなあ』(かこさとし・作 ポプラ社)

にこにこ保育園のやまのやまこ先生は、子どもたちに大きくなったら何になりたいかを聞きました。看護師さん、パン屋さん、やおやさん、お医者さん、動物の飼育係、保育園の先生などたくさんありました。



- 絵本『おかあさんはしごとちゅう』
(沼野正子・作 かがくのとも 222号・福音館書店)

私たちのおかあさんはしごとをしています。どんなしごとがあるのか知りたいなあ。いろいろなおしごとがあって、おかあさんは活躍しているんだよ。